

日々の学級日誌の活動で培われる子どもたちの学力

— Web 学級日誌の研究プロジェクトの取り組みから —

バディ・コミュニケーション(株) 大笹いづみ、狩野ひろみ

oosasa@buddy.co.jp、kanou@buddy.co.jp

キーワード 学級日誌, 学力向上, 書く力, 話す力, 情報モラル

1. はじめに

児童・生徒に学力をつけることは、学校および担任の最大の責務になっている。そのような中で、日々の学級日誌の活動が、子どもたちの学力の向上や定着にどのように結びついているのかを研究するプロジェクトをすすめている。

「Web 学級日誌」は、学級日誌をつけるという日々の活動の中で活用されるソフトウェアである。活用されている時間は、主に休み時間、朝・帰りの会、放課後など(図1)である。時には、日々の活動の内容を題材にして、教科の授業で活用されることもある。活用における大きな特徴は、日常的に継続した活用がなされること、操作が直感的で簡単なのですぐに始められること、すきま時間で活用できることである。

このような特徴をふまえながら、現在、研究プロジェクトをすすめている。その中から、取り組みの様子を一部ご紹介する。



図1 日々の活動風景

2. 各教科において

各教科においては、「Web 学級日誌」を各教科の学習や学級の取組と関わらせながら、学力の向上や定着を図るための手段として活用していくことが考えられる。

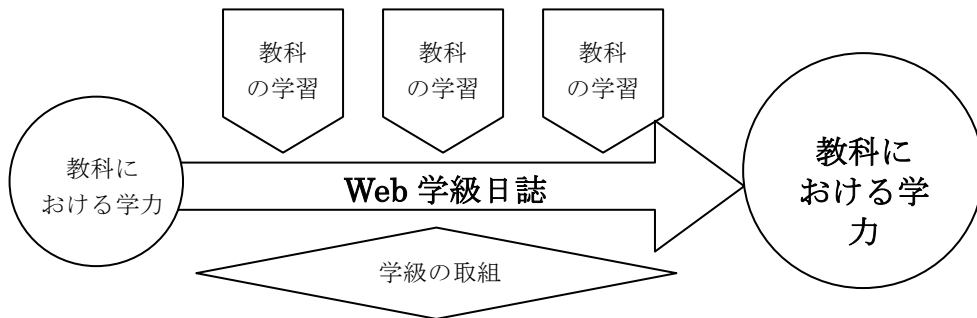


図2 教科の学習との関連



図3 「Web 学級日誌」の活動と国語科の学習活動と関連

たとえば、国語科の学習において「的確に話す(書く)力」を育成するために、「Web 学級日誌」の日常的な活動と国語科の学習活動を図3のように関連づけている事例がある。

日々の活動では、デジタルスピーチにおいて「Web 学級日誌」のインターフェースの「今日のできごと&ニュース」(図4)を活用している。この活動を通して、話の内容や組み立てを考えさせて、伝えたいことを的確に書く力、および、話す力を育成し定着させることをねらいとしている。



図4 「Web 学級日記」の 今日のできごと&ニュース

このような取り組みにおいて、ある児童からは以下のような変化がみられた。

- ・話す時間 29秒 → 32秒
- ・話の内容 3項目 → 4項目
- ・話題を探しながら → 順序を考えて
- ・間が長い → 話している時間が長い
- ・画面を見て → 聞く人を見て



現在は、総合的に判断できる材料がそろっていないが、今後、日常的な学級日記の活動と子どもの力の関連づけをさらに明確にしていきたい。

3. 情報モラルにおいて

「Web 学級日記」には、登録した学校同士お互いに自分たちの日記を見せ合い、それを基にメッセージを送ったりしながら交流ができる「じょうほう宝箱」というインターネットを利用した仕組みがある。今年度はその仕組みを利用して、情報モラルを考え、学習するプロジェクトを始めている。



図5 「じょうほう宝箱」のトップページ

他の学校と子供同士の交流をするとき、どのようなことに気をつけたら楽しい交流ができるのだろうか。または、自分たちの日記を公開することを通して、インターネットを利用する場合、情報をどのように表現したらよいかを中心に学ぶ学習の場として「じょうほう宝箱」を考えてみることにした。

このプロジェクトでは、子どもたちに指導していく上で、気持ちの上で子どもたちにどのように育って欲しいか、という部分をまず考えていくことにした。

情報モラルの学習となると、どうしても「こんなことはほしくないようにしましょう」という否定型の進め方が多くなってしまいが、「Web 学級日記」を使うことで「情報モラルを適切に理解することで、本当に楽しく交流ができた。」「自分たちの日記をよりよく理解してもらえた。」という体験を通して、情報モラルを学んでもらえないかと考えた。気をつけようという気持ちだけでなく、うれしいとか楽しいという気持ちが生まれる体験や、うまくいった体験も、子どもが成長していく上では大切で、その体験があるからこそ、これからの情報社会を生き

ていく上で、前向きで、よりよくしていきたいという気持ちを育てられるのではないかと考えたからだ。

現在「じょうほう宝箱」では、毎日30件以上のメッセージのやり取りが行われている。ネットワークを通して、子ども同士で、子どもの目線での交流が始まっている。その他、画像が入られる掲示板としての使い方ができる『よびかけ広場』を通して、それぞれの学校同士情報交換が活発に行われている。

まったく違う地域や、まったく違う環境で育った子どもたちも、お互いを知ることで自分たちを見つめなおすきっかけを、この「じょうほう宝箱」で作っていているようだ。そんな中で必要な情報モラルを、日常的に学び合える場として、「Web 学級日記」が活用されている。

4. まとめ

日々の学級日記の活動が、子どもたちの学力の向上や定着にどのように結びついているのか？それを明確にしておくために、大学の先生、学校の先生方と共同で研究をすすめていきたい。さらに、この取り組みには、教師の指導が必要である。子どもたちの学力と、「Web 学級日記」を教師がどう結び付けていくのか？そこもあわせて、今後、明らかにしていきたい。



図6 『よびかけ広場』のページ